

# Tomorrow

尾張旭市立西中学校

1年C組 学級通信

第11号 H30.12.14

発行者 伊藤真之

## かけがえのない日常

「皆さんとってもかっこいい運動靴を履いていますね。それが平和というものなんですよ。」

一言一言が深く、重みのあるお話でした。昨日の「被爆体験かたりべ講演会」での講演です。1945年8月6日、講師の近藤さんは4歳のときに広島で原爆の被害にあわれました。燃え尽きる前に我先にと川に飛び込んだ人々、やけど、異臭、疎開先での差別、原爆症で亡くなっていく親戚や友だち…。想像すら及ばないような悲惨な戦争の記憶です。お話の締めくくりはこのような内容でした。

皆さんには夢があるでしょう？お医者さんになるとか、野球選手になるとか、名古屋グランパスに入ってサッカーをやるとか…。平和な世の中になったんだから一生懸命取り組んでほしい。でも挫折することもあるでしょう？そのときに、落ち込んだりして、自分で命を絶ててしまったりする人も…。でも、ちょっと待ってほしいの。私は被爆して大変な思いをしたり、疎開先で差別されたりして辛かったけれど、がれきの中に真っ赤なホオズキを見つけたように、この歳まで一生懸命生きていて、よかったこともたくさんあった。皆さんには…。命を大切にしてほしいの。命はたった一つしかないの。ゲームだったら、リセットすれば何回もやり直せるけど、お空の上に逝ってしまったらやり直せない。本当の人生は一度きりしかない。だから命を大切にしてほしい。自分の命も人の命も。まずは、身近なところから。

講演を聴いた後、帰りのSTを済ませて、僕は運動場で部活動を見ていました。ソフト部・野球部・サッカー部・陸上部…。どの部活も一生懸命、楽しそうに練習に励んでいました。僕は「平和ってこういうことなんだなあ」と感じました。部活動も、運動場の周りの植物も、西中の校舎も、下校時間の音楽が鳴って急いで帰っていく皆さんも、普段から見ているありふれた光景なのに、そのときはなんだか、かけがえのない大切なものだと感じたのです。

何かを学んだときに、日常の物事の見え方が変わったり、普段は考えないようなことを考えるようになったりすることがあります。僕たち教員の世界ではそのことを「見方・考え方の習得」と呼ぶのですが、今回の講演会も皆さんが新たな見方・考え方を知るきっかけになったのではないのでしょうか。そして、その見方や考え方を語り継いでいくことは、今度は皆さんの世代の役割になるのです。



## 「いただきます」の意味

時は流れ、食べ物には困らない時代になりました。皆さんは「いただきます」の意味を考えたことはありますか？一つ目の意味は、食事を作ってくださっている方への感謝です。二つ目の意味は食材への感謝です。肉や魚はもちろんのこと、野菜や果物にも命があると考え、「命をいただきます」というのが本来の意味だと言われています。精一杯生きている命を、自分のためにいただくのです。だからこそ食べ物は尊いものですし、給食が当たり前のように食べられる環境があることも幸せなことです。苦手なおかずを半分残すのが癖になっている人も、今日は残すのをやめ、いつもよりさらに精一杯生きるエネルギーにしてみませんか？